



洗心

令和6年度卒業式号
令和7年1月25日発行
発行所
近畿大学附属
新宮高等学校
中学校
新宮市新宮 4966 番地

第六十回 高等学校 卒業証書授与式

式辞

校長 池上博基



校庭にも学園の徽章、梅の花がほころび始めた今日
よき日に、和歌山県知事代理、東牟婁振興局長 鳥羽真
司様、並びに新宮市長 田岡実千年様をはじめ多数のご
来賓、そして保護者の皆様のご臨席を賜り、第六十回
近畿大学附属新宮高等学校 卒業証書授与式を盛大に
挙行できますことを心より感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました卒業生10四名の皆
さん、ご卒業おめでとうございます。一人ひとりが三年
間、中高一貫の卒業生は六年間、たゆまぬ努力を積み重
ね、本日、卒業という生涯忘れられない日を迎えること
ができました。その努力に対し、心から拍手を送り、祝
福したいと思います。

保護者の皆様、長い間、陰に日向に、時には共に笑い、
時には心を痛めながら、ここまで育ててこられたことに
敬意を表しますとともに、心からお祝い申しあげます

卒業式は生徒にとって、最も重要視される集大成の学
校行事です。学校にとっても、学校自身の教育成果が問
われる儀式です。われわれ教員が、「本校で学んでくれ
てありがとう」、「本校の学校生活で学んだこと、努力し
たことを忘れずこれからも頑張ってください」と感謝と
激励をする行事です。教職員一同、六十回目の節目とな
る本日の卒業式が皆さんの心に残るものになればと願
っています。

さて、3年前、コロナ禍の中、皆さんは近畿大学附属
新宮高等学校に入学されました。その入学式で、本校の
教育に対する考えの一つをお話ししました。

「現在のようにペットボトルとかがなく、水筒のふたが
木でできている時代の小学校の遠足の話です。子供達は
昼食時や休憩時になると先生のところへ「ふた開けて」
と集まりました。先生は、一人ひとり、親切に声をかけ、
一人ひとりの力の状況を考えながらふたを緩くしてあ
げ、「あとは自分で開けなさい」と手渡しました。結局先
生に開けてもらうことではなく、助けてもらい自分の力
で開けるといふ指導をしたため、徐々に自分で開けられ
る子が増えていきました。

本校は、ふたを開けてもらって、「ありがとう」と言え
ることより、「自分でふたが開けられるようになりまし
た。ありがとう」と言える生徒を育てることを理想とし
ます。力の強い子、弱い子、子どもには個性があります。
それぞれが素晴らしい大切な個性です。その子の個性に
応じて、対応すること、教育することが大切だと考えま
す。自ら頑張る、自ら達成感を感じ取ることが出来るよ
うに、一人ひとりの個性を知り、少し上の目標を示し、
それに向かって頑張らせること、これがわれわれ近大新
宮の教育に対する考え方です。」という話です。

皆さんは、本校の教育方針のもと、楽しくやりがいの
あることについてはもちろん、苦しく、悲しく、腹が立

ち、投げ出したいたいことに対しても、友人や保護者、教員
の力を借りながら、最終的には自分の力で頑張ってくれ
ました。自分の課題を自分で主体的に解決しようとする
力を身につけてくれたことと確信しています。

近畿大学創設者世耕弘一先生は、「人類の歴史は、常
に苦難の歴史である。しかし、不自由のところは発明が
あり、苦しいところに進歩がある。大きな仕事の完成の
前には、必ず努力、苦心、という課題をわれわれに投げ
かけてくれておるのであります。」と述べています。

卒業生の皆さん、新しいステージへの旅立ちです。こ
れからの人生においても、さまざまな苦労や課題に直面
することがあるでしょう。「何とか自分で解決し、進歩
することができました。」と言える近畿大学附属新宮高
等学校の卒業生として、自信と誇りを胸に激動の社会を
力強く生き抜いてください。

結びにあたり、本日の卒業を祝し、ご列席を賜りまし
た、ご来賓の方々、保護者の皆様に重ねてお礼申しあげ
ますとともに、今日まで本校に寄せられました温かいご
理解とご協力に対しまして心より感謝申し上げます。

卒業生一人ひとりの限らない前途を祝福し、私の式辞
といたします。

令和七年一月二十五日

近畿大学附属新宮高等学校
校長 池上博基

答 辞

三年A組 前田 一成

冷たい風の中にも、新しい春の始まりを予感させる陽の光が、私たちを照らし出す今日のこの日、私たち卒業生のために、このような晴れやかな卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、ご多忙の中、ご臨席くださいましたご来賓の方々、校長先生をはじめとする先生方、並びに保護者のみなさま、卒業生一同心より御礼申し上げます。先程、みなさんから力強い励ましのお言葉と温かいはなむけのお言葉を賜り、身の引き締まる思いです。

この三年間を振り返ると、入学したあの桜吹雪の春の日から、仲間と一緒に笑ったり、泣いたり、悩んだり、決断したり、落ち込んだり、開き直ったりした日々の連続でした。あの日の幼さ、頑なさ、無防備さ、無鉄砲さを思い出すと、恥ずかしさや苦い思いに、もう一度その場に戻ってやり直したいと思うこともあります。でも、過ぎていった日々はもう戻りません。「高校生だった自分」にはもう戻れないのです。私たちはそんな眩しく、もう触ることのできない思いの先に立っているのです。

卒業する私たちは、みな成人となり、それは、不自由だと思っていた制限から解放される代わりに、責任の重さを理解することだと思えます。未成年という盾に守られていた今までと決別し、それぞれの判断で正しさを見極め、行動していかなければなりません。

在校生のみなさん、今しかできない事がたくさんあります。そしてそこから得られる全てはきつと宝物になるはずです。人との出会いを、友人との時間を、そして自分自身を大切に、楽しく充実した時を積み重ねていってください。

この三年間私たちの学校生活を支えてくださった先生方、職員のみなさま、今までありがとうございました。たくさん学びの機会と、愛情を頂きました。いつも信頼できる存在であり続けてくださったことに心より感謝申し上げます。

最後に、どんな時も私たちの一番の味方でいてくれた家族とともに、今日のこの日をこうして一緒に迎えられることを、とても嬉しく幸せに思っています。心配をかけても、迷惑をかけても、私たちのことを信じ、変わらずそばにいて支えてくれた愛情に、これからは少しずつでも恩返ししていきたいと思えます。これからもよろしくお願ひします。

私たちは本日をもって近畿大学附属新宮高等学校を卒業します。支えてくれる人々へ感謝の気持ちを忘れず、自分らしさを大切に、悔いのない人生を歩んでいきたいと思えます。今日まで私たちにたくさん愛情を注ぎ、応援してください。つた全ての方々に心からの感謝を申し上げますと共に、ここにいるみなさまと近畿大学附属新宮高等学校の美しい未来を心から祈念し、答辞といたします。

令和七年一月二十五日

卒業生代表 前田 一成

送 辞

一年B組 木村 遼太郎

厳しかった冬の寒さも少し和らぎ、教室の窓から差し込む日差しにも春の気配を感じられる季節となった今日、この近畿大学附属新宮高等学校から旅立ちのときを迎える三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

今思い返すと、先輩方との日々は温かく、色鮮やかで、たくさんお世話になった思い出が浮かんできます。

先輩方の高校三年間は楽しかったことや嬉しかったことだけではなかったと思います。入学式は新型コロナウイルスの影響で、マスク着用で行われ、他の学校行事も、縮小されたり中止になったりしたものもあつたと聞いています。友達や先生方と談笑するときも、マスクの下の笑顔を直接見られないもどかしさがあつたと思います。当たり前の学校生活が、当たり前にできない悔しさや悲しさがあつたと思います。

ですが、長かったコロナ禍が明けてみんなで一緒に学校生活を楽しめるようになると、先輩方は様々な場面で私たち後輩を引っ張ってください、学校生活を盛り上げてくださいました。近大新宮祭では、体育行事の応援合戦の練習で、短い準備期間の中でみんなが踊れるようになるように振りつけやフォーメーションを工夫し、丁寧に教えてくださいました。その優しさに救われて、本番ではみんな笑顔で踊りきることができました。

また、七夕のランタンフェスやバレンタインの近愛祭など新しいイベントを計画してくださいました。学校にキッチンカーが来たときには、みんなで終業のチャイムをワクワクして待ちました。イベントの時には、生徒会の先輩のほかに多くの先輩方がボランティアとして活動されていて、みんなに楽しんでもらおう、みんなと一緒に楽しもうとされている姿が印象的でした。

部活動でも、後輩を率先して引っ張ってください、分からないことがあれば分かりやすく指導してくださいました。そ

んな先輩方と一緒にだったから、どのクラブも近大新宮史上、最高のパフォーマンスができたのだと思います。

そんな先輩方に、私たちは憧れ、目標とし、私たちも先輩方のような人になれるように努力を続けていこうという気持ちになりました。次は私たちが近大新宮を引っ張って、先輩方が築いてくださった土台を引き継ぎよりよい学校にしていこうと思います。

そして、これからの受験という先輩方、きつとこれまで計り知れないほどの努力を積み上げて来たことだと思います。その成果を発揮し、全力を出し切って来てください。私たちの道標となるみなさんを応援しています。

この卒業式が終わると新しい生活が始まるみなさんには多くの楽しみや喜び、驚きが待っていると思います。一方で不安や心配、逃げ出したくなることもあるかと思いますが、ですが、どんな時も私たちを楽しませ、一緒に楽しもうとし、私たちが後輩を今日まで引っ張ってくれた先輩方なら、どんな困難も笑顔で上手く乗り越えていけると信じています。

先輩方のさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。今まで、本当にありがとうございました。

令和七年一月二十五日

在校生代表 木村遼太郎

先生方から贈る言葉

三年A組担任 東元 千春



H3Aのみなさん ご卒業おめでとうございます。

そして、3か月間、ありがとうございました。

このあつという間の3か月は、みなさんは日々、自分の進

路を実現するために勉強や面接練習に励み、私はS・H・R・

のたびに卒業式でみなさんの名前を呼ぶイメトレをしてき

ました。

ですが、初めて担任として送りだすみなさんへ届けたい想

いをまとめるにはもう少し時間がほしいのでここには「おめ

でよう」と「ありがとう」だけ記して、あとは最後のH・R・

で伝えます。

早すぎる卒業式で

まだ咲かぬ桜を

雲一つない空を

背を押す大浜の風を

いつの間に流れる涙を

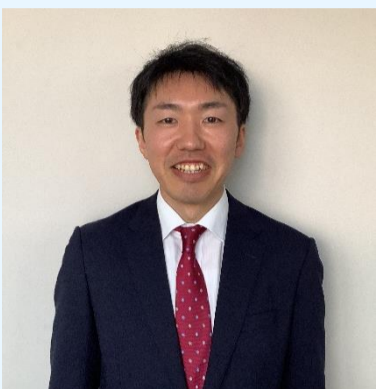
君らの青い春を

涙を堪える私は

いつまでも憶えていよう

それじゃまたね

三年C組 担任 奥村 兼大



C組のみんなへ

卒業おめでとうございます。

君たちが高校2年生になるとき、初めての担任になることが決まり緊張と不安でいっぱいでした。1年生のときに授業で会っていたけれど、関わる時間も多くな、顔と名前が一致するか怪しい人もいました。それでも普段の学校生活に加えて、春と秋の勉強合宿や高野山参拝、近大新宮祭など共に楽しい時間を過ごし、自分も成長できた2年間でした。本当にありがとうございます。初めて担任したのが君たちで良かったです。卒業後もまだまだ人生は続き、楽しいこともあれば辛いこともあります。遠回りしても良いので、君たちらしく過ごしてください。応援しています。

三年D組 担任 最田 真司



卒業おめでとうございます。

これからの人生は周りとは協力しながら、自立した生活を送らなければなりません。そんなとき、「周囲からの冷ややかさ」を感じることはありません。そんなときは学校生活を思い出してください。色々ありながらも3年間一緒に学んできたみなさんは、その「冷ややかさ」を「ほんの少し温かさ」で癒すことができる存在です。周りにいてくれる人を大切にしていきましょう。もちろんその中には自分自身も含めてください。また会う日まで。

三年E組 担任 吉川 真平



高校三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業

する皆さんに覚えておいてほしいことが三つあります。一つ目は「謙虚であれ」。偉そうな態度を取れば、人はあなたから離れていきます。二つ目は「感謝を忘れるな」。日頃のありがとうを言葉にして、大切な人に伝えましょう。三つ目は「あなたは一人じゃない」。この言葉には色々な解釈があると思いますが、私は「困ったら一人で悩まず早めに周りに頼れ」と「一人の行動が良くも悪くも周りにも影響を与える」という二つの意味でこの言葉を贈ります。人と関わらずに生きていくことはできません。自分の味方でいてくれる人を大切にしましょう。そして、大切な人と美味しいご飯を食べて、これからも健康で過ごせることを祈っています。

各賞受賞者

近畿大学学園賞	新谷 恭多 (A組)
校長賞	前田 一成 (A組)
和歌山県知事賞	藤本 大輝 (C組)
私立中高連合会長賞	木下 成実 (C組)

皆勤賞

A組	上野 小雪	岡寄 悠士朗	吉良 佳子
	吉良 和子	新谷 恭多	筒井 美桜

C組	板持 智大	西 世愛	松下 凌大
----	-------	------	-------

D組	田中 楓
----	------

後輩からのメッセージ

《硬式野球部》

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。本当に、いつも優しく、時に厳しく、常に元気で明るい先輩方で、一緒に毎日過ごして本当に楽しかったです。甲子園という目標を僕たちが達成できるように頑張ります。これからは、それぞれいろいろな道に進んでいくと思いますが、更なる活躍を期待しています。今後とも応援よろしくお願いします。

《卓球部》

ご卒業おめでとうございます。先輩はいつも明るく笑顔で私たちに接してくれました。そんな先輩が楽しく部活ができる雰囲気を作ってくれたおかげで、人数が少なくても毎日賑やかで精神的に部活に取り組むことができました。そのうえ、先輩が私たちにしてくれたことはどれも温かく嬉しいものでした。特に、大会で積極的に応援してくれたことがとても励みになり、試合一つ一つがより良いものになりました。短い間でしたが、先輩と一緒に卓球ができて楽しかったです。本当にありがとうございました。大学に行っても頑張ってください。

《ソフトテニス部》

先輩方、これまでありがとうございました。もう学校で姿を見れないと思うと、すごく寂しいです。明るかった部活の雰囲気が忘れられません。これからは私たちがらしい雰囲気で頑張りたいと思います。お世話になりました。

《サッカー部》

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。皆さんと過ごした時間は私たちにとってすばらしい財産です。先輩たちが見せてくれた最高の景色を私たちも見れるように、そして超えられるように日々の練習から積み上げていきたいと思えます。これからは自分たちが決めた道を信じて頑張ってください。今まで本当にありがとうございました。

《なぎなた部》

3年生ご卒業おめでとうございます
先輩方のアドバイスや優しい声かけのおかげで日々頑張ることができました。
知らないことだらけで不安でいっぱいだった遠征や大会での先輩方の姿はとても心強かったです。
真剣にクラブに励んだり、引退後もクラブに顔を出しに来て下さったり、常にクラブ思いな先輩方を尊敬しています。
先輩方の更なるご活躍を期待しています。
本当にありがとうございました。

なぎなた部

《女子バレーボール部》

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。いつも明るくて優しい先輩たちのおかげで部活に行くことが本当に楽しみでした。厳しい練習のなかでも楽しそうにバレーをする先輩たちを見て自分たちも頑張ろうと思えました。今まで先輩たちから学んだことを活かして私たちが成長していきたいと思えます。

これから大変なことがたくさんあるかもしれませんが、先輩たちらしく頑張ってください。後輩一同、心から応援しています。本当にありがとうございました。

《女子バスケットボール部》

ご卒業おめでとうございます。先輩方と一緒にプレーできたことは、最高の思い出です。辛く苦しいこともたくさんありましたが、それを乗り越えることができたのは、先輩方の存在があったからです。ずっと側で支えてくださり、本当にありがとうございました。

これからも大変なことがあると思いますが、先輩方らしく夢に向かって頑張ってください。後輩一同、応援しています。

《空手道部》

三年生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。先輩方のいらっしゃる稽古では大変有意義な時間を過ごすことができました。大会の時もたくさんアドバイスをいただきました。大変多くの場面で勇気や技術を学ぶことができました。それは私たちにとって貴重で記憶に残る経験となりました。誰よりも努力し、稽古を頑張っている姿を見て自分たちも頑張っていると思うことができました。進学してもたくさんの方の困難にぶつかるとあるかもしれません。先輩方ならきっと乗り越えられると思います。

最後になりましたが、先輩方から私たちはたくさんアドバイスを始め、心構えや技術を教えていただきました。卒業してからも先輩方のご健闘をお祈りしています。今まで本当にありがとうございました。

《メディア部》

ご卒業おめでとうございます。いつも未熟な私たちを引っ張ってくれてありがとうございました。物事を進めることが上手で、アイデア豊富な先輩方は憧れの存在でした。

ありがたいことに今では部員がとも増え、賑やかなIT教室になっています。また、演劇部門という新しい枠もでき、より幅広く活動に取り組むことができています。文化祭の活動やYoutube 甲子園なども一丸となって頑張っています。自分の夢に向かって日々努力している先輩方をこれからもメディア部一同応援しています。今までお世話になりました。

《華道部》

ご卒業おめでとうございます。いつも優しく、明るく、クラブを楽しんでくださって、ありがとうございます。部員やイベントが多くなっていく中で、先輩方みんなをまとめている姿はとても素敵でした。そんな先輩方を見習って、私たちが華道部をより良い雰囲気にしていこうと思います。

これから大変なこともあると思いますが、それぞれの目標に向かって頑張ってください。今まで本当にありがとうございました。

《書道部》

ご卒業おめでとうございます。新しいパフォーマンスに挑戦するなど、新たな試みが多い一年の中で試行錯誤をする先輩方から多くのことを学びました。まだまだ未熟な部分も多い私たちではありますが、学んだことを生かしながら、この書道部を守っていきます。

本当にありがとうございました。これからも未来に向かって突き進んでいってください。

《茶道部》

ご卒業おめでとうございます。茶道のことが何も分からなかった私たちに優しく接して、作法などを教えてくださりありがとうございました。先輩方のおかげで毎週のクラブがとっても楽しみなったし、本当に楽しかったです。

先輩方が卒業されるのは寂しいですが、またお会いできるのを楽しみにしています！

《吹奏楽部》

ご卒業おめでとうございます。先輩たちの練習に一生懸命な姿、私たちの前での確かな指示をする姿、そしていつも笑わせてくれる姿、それらすべてが私たちの憧れの姿でした。

一歩先を歩いている先輩たちは、とても大きな目標であり、家族のような優しさと誰よりも妥協しない厳しさを持っていました。毎朝音楽室でトランペットを奏でていた武士（もののふ）、数多くの音楽の知識と技術で私たちを支えてくれたミュージシャン、いつも面白い話を一生分笑わせてくれたギャル、クールに見えて実は一番後輩思いの飼主、涙もろく手紙で泣いて喜んでくれたラーメン屋、少しの間でしたが、一緒に成長できた人、それぞれにそれぞれの個性があり、それぞれがそれぞれの青春をしていました。片道の人生に、先輩たちから私たちは「出会い」という宝物をもらい、これからの長い旅に「思い出」という贈り物ができました。音楽というもので先輩たちと出会うことができるとも幸せな毎日でした。先輩たちがいなくなるのは、とても寂しいですが、旅立つ背中を眺め、涙はぐっと堪え、笑顔でこれからも歩み始めていきます。交差点でまた会えたら、その時は長い長い話を夜が明けけるまで語り明かしたいです。3月の定期演奏会で再び一緒に演奏できることを楽しみにしています。今はグッドバイ。

《美術部》

ご卒業おめでとうございます。先輩方が、新宮展や文化祭、読書感想画コンクールなどで活躍されている姿を見て、すごいなと思いました。私達も先輩方のように、絵が上手になれるように頑張っていきたいと思っています。

先輩方のご活躍をお祈りしています。ありがとうございました。

《スーパーサイエンス部》

「発見は、前もって積み重ねられた苦しい努力の結果です。」
マリー・キュリー
スライムの配合の仕方、カルメ焼きの熱の入れ方、水生昆虫の見かけ方・・・先輩方が私達に伝えてくれた発見は、サイエンス部の財産です。

私達に伝えてくれたものは、科学的なものだけでなく、部活動に取り組む姿勢、イベントでの立ち振る舞い方等も含め、全てが財産です。後輩達のことを置いていかず、私達が今後の活動に困ることがないよう、発見、楽しさを常に共有し、残してくれました。

「人の価値とは、その人が得たものではなく、その人が与えたもので測られる。」
アルベルト・アインシュタイン

私達も先輩方のように、自分達が満足することで終わらず、次世代に伝えられるように頑張ります。本当にありがとうございました。

《ダンスサークル》

ご卒業おめでとうございます！
頼りがいのある先輩たちに多くのことを学ばせてもらい、たくさん笑わせてくれたことに感謝しています。最後のランチタイムパフォーマンスでは、受験で忙しいなか練習に来てくださり、みんなで踊ることができてとても楽しかったです。

これから大変なこともあると思いますが、夢に向かって頑張ってください。先輩方の今後のご活躍をダンスサークル一同応援しています！ 本当にありがとうございました！